

ゲド戦記

TALES from EARTHSCA

竜 組み立て説明

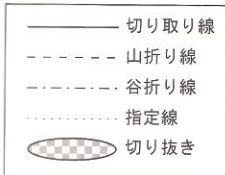
◆お子様と親御様へ

このペーパークラフトは小学生高学年以上を対象に設計してあります。むずかしいところは、大人の方に手伝ってもらって作りましょう。

◆用意する物(ほとんどは100円ショップ等で手に入ります)

○ハサミ ○カッターナイフ ○木工用ボンド(速乾タイプ) ○定規 ○鉛筆、インクの出なくなったボールペン等(折り目を付けるのに使用) ○カッティングマット(いらなくなった雑誌や厚紙でも可) ○丸棒(丸みを出すのに使います。数種類の径のものがあると便利です) ○へら、つまようじ等(接着剤を付けるのに使用) ○棒、割り箸等(指が届かない所を押さたりするのに使用) ○ピンセット ○針金(太さ1mmのもの約2m、太さ2mmのもの約1.5mの2種類) ○ペンチ ○糸(飛行タイプを糸の用に使用)

◆線の表記について



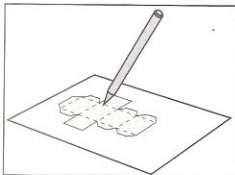
注意:指定線(細かい破線)は折りません。

◆文字や番号の表記について

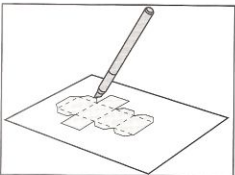
番号は必ずしも通し番号ではありません。ですから存在しない番号があっても間違いではありません。同じパーツには同じ番号が付いている場合があります。

◆組み立ての手順

- 1.必要なページを本体から切り離します。
- 2.破線を鉛筆等でぞり、折り曲げやすいように折り目を付けます。

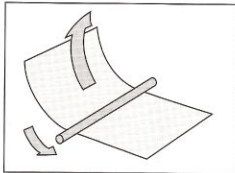


- 3.切り取り線をハサミで切り離します。一度に全て切り取らないで組み立てる分だけ切り離しましょう。全て切り離してしまうと、どの部品が分からなくなるおそれがあります。穴など切り取り部分がある場合は先にカッター等で切り抜きます。



- 4.丸い筒状の部品は丸棒や定規などで軽くごし、丸くせを付けてから組み合せてます。

小さい部品は切り取る前に先にくせをつけておくのと良いでしょう。

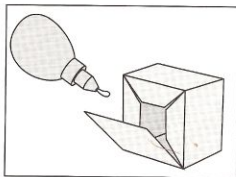


丸みくせを付ける場合、特に指定がなければ彫らんだ凸丸みくせのことで。凹丸みくせの場合は凹と指定します。

- 5.折り線に沿って折り曲げ、ボンドで接着します。接着剤は木工用ボンドがお勧めです。やまとのりや有機溶剤入りの接着剤はお勧めできません。細かいのりしるには、へらつまようじなどを使います。ボンドはのりしるの表より反対側の裏に塗ると裏面にはみ出さずにきれいに仕上がります。

圧着させたときにボンドがはみ出すようなら付け過ぎです。しっかりつくまでしばらく指で押さえます。ボンドが乾くまで押さえておく必要はありません。組み合わせはいきなり貼り付けず、仮組みして確認してから貼っていきましよう。

木工用ボンドは付け過ぎると紙が凸凹にたれたり、はみ出て表面が汚れたりするので気をつけましよう。はみ出した場合はすぐに濡れティッシュ等で拭き取ると良いです。



◆組み立ての際の注意

○カッターナイフなど刃物の取り扱いには十分ご注意ください。切れ味の落ちたカッターで切るのは余計な力が加わり大変危険です。良く切れるカッターをご使用ください。またカッターを使用する際にはカッティングマットや厚紙などを下敷きとしてお使いください。

○展開の都合上、のりしろ幅がせいまい所があります。そういう部分には裏から余った紙を貼り付けて補強してください。

○紙の厚み分誤差が出てパーツが若干合合わない場合があります。その場合は少し大きめに切れ目を入れる等して対処してください。

○似違ったパーツがあるので、必ず接着前に仮組みでパーツの前後左右上下も確認してから接着するように心がけてください。



TALES from EARTHSCA

※デザイン上、尖ったパーツがあるので、つついたりしないように注意してください。小さなお子様には絶対に与えないください。

●パーツ番号の説明

座りタイプと飛行タイプは、翼の作り方が異なるだけで、あとは基本的な作り方はほとんど同じです。ですので、同じ作り方のものはまとめて説明いたします。

パーツ番号のSは座りタイプ、Fは飛行タイプを意味します。Lは左パーツ、Rは右パーツを意味します。ですから例えば、Sa-R01は座りタイプで右パーツとなります。

例えば、a-R01と説明にある場合は、Sa-R01とFa-R01のパーツの説明という事です。b-27とある場合は、Sb-L27とSb-R27、Fb-L27とFb-R27のパーツの説明という事になります。

胴体

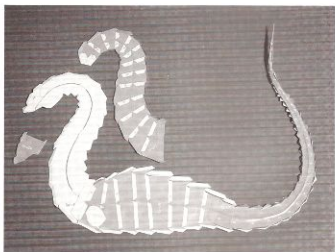
骨組み 使用ページ ○座りタイプ:p005~p010 ○飛行タイプ:p047~p050



a-01, a-02, a-03, a-04を同様に余白を残して少し大きめに切り取ります。先に線のとおり切って、後で折ろうとしても細かい部分は折り辛い場合があるからです。折り線に鉄筆で筋を入れ、ハサミで切れ込みを入れてから折り曲げます。細かい部分はピンセットで挟んで折り曲げると良いでしょう。折り曲げた後、余白を切り取ります。



a-R01とa-R02とa-R03とa-R04を接着してつなげます。太さ1mm(0.9mm~1.2mm)ほどの針金を点線に沿うように曲げ、上に配置します。針金は長めに用意し、形が合ったら後で正しい長さに切ります。針金はだいたい中心を通ってれば、多少点線とずれていてもOKです。針金は尻尾から頭の先まで1本で通して入れます。針金がずれないように、余白の紙を貼って所々とめておくとも良いでしょう。しばらく上に重しをのせて余計な歪みを取り除きます。尻尾の先端は尖って危ないため、針金は先端から1cmほど余白を残して切り取ってください。



a-R01にa-L01を尻尾の先端から少しずつ貼って針金を挟んで接着します。端の折り曲げたのりしろまで接着しないように注意してください。a-L01が貼れたら、次にa-L02をずれないように貼っていきます。同様にa-L03、a-L04も貼り合わせます。

飛行タイプのFa-022は別パーツになります。

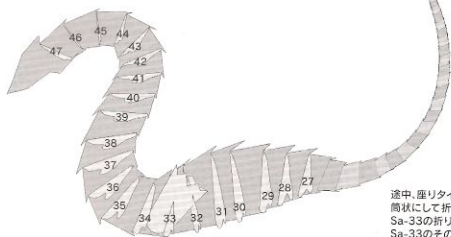
094

使用ページ

○座りタイプ:p011~p014,p021(p022)

○飛行タイプ:p051~p054

b-27からb-47まで左右とも貼ります。



途中、座りタイプはSb-331を331の位置に先に貼り、筒状にして折ったSa-33をのりしろを合わせて貼り、Sa-33の折り目がSa-02の点線の位置に合うように接着します。Sa-33のその上にSb-332を貼ります。

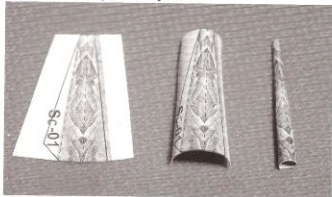
途中、飛行タイプは別パーツFa-022に、Fb-322、Fb-332、Fb-342を貼ります。



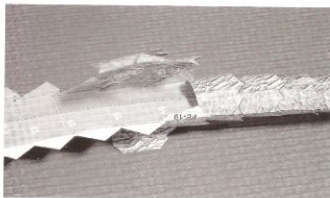
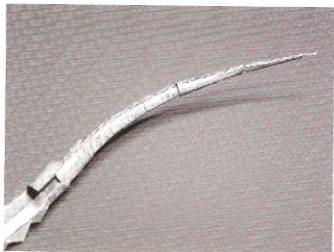
使用ページ

○座りタイプ:p015~p026

○飛行タイプ:p055~p066



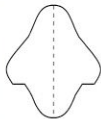
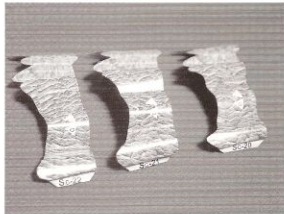
cパーツは尻尾の先端から頭の先に向かう順番で貼っていきます。
c-01に丸くせを付け、円錐形にしてから尻尾の先端に被せて接着します。
細かくて円錐形に出来ない人は折り目を付けて四角錐にしても構いません。



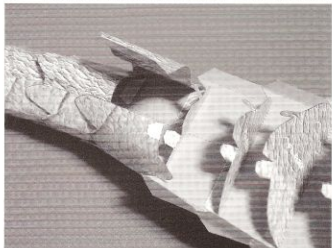
c-02からc-19まで、丸くせを付け、数字の順にaパーツの周りに巻きつけるようにのりしろの位置を合わせて円筒形に接着します。
前後上下を間違えないように注意してください。
cパーツはaパーツの上下ののりしろの切れ込みに差し込んで、先に貼ったcパーツの上に重なるように次のcパーツを被せていきます。



c-20からc-26までは写真のように凸凹丸みくせを付け、断面が図のようになるように意識して順に貼っていきます。



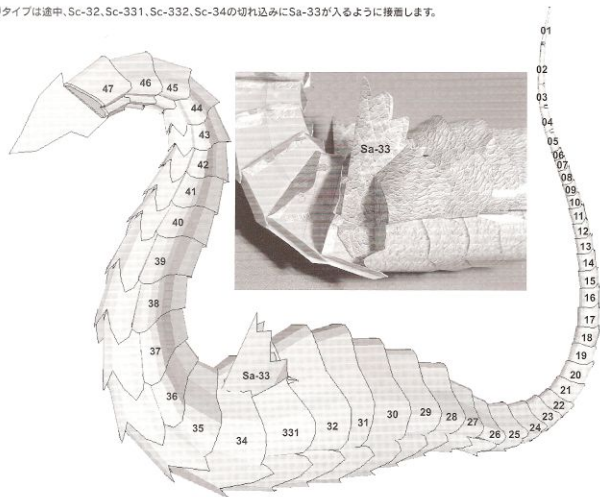
c-27からc-47まで尻尾と同じように丸くくせを付けたパーツを貼っていきますが、bのパーツにのりしろを合わせて接着します。裏にヘラや割り箸を差し込んで押さえます。



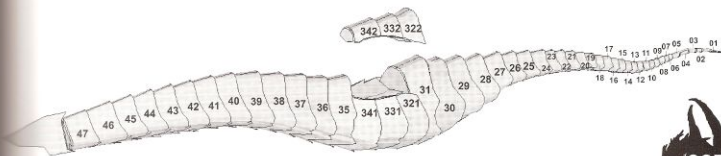
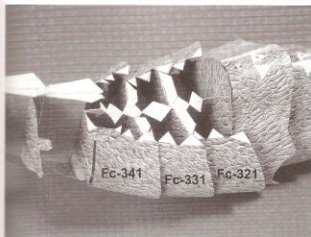
Sc-31は山折り点線に沿って折り目を入れ、
下部分を軽く凹ませておきます。
後で後脚を配置するためです。

Sc-31

廻りタイプは途中、Sc-32、Sc-331、Sc-332、Sc-34の切れ込みにSa-33が入るように接着します。

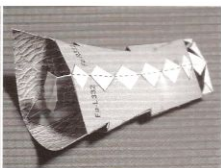


飛行タイプはFc-321、Fc-331、Fc-341の上部が空き、後でFa-L331+Fa-R331を貼り付けふさぎます。
Fc-322、Fc-332、Fc-342はFa-022に貼り付け別パーツとなります。





飛行タイプでは
Fa-L331とFa-R331ののりしろを
交互にかみ合わせて接合します。
写真のように凹カーブができるようにします。
Fa-L332とFa-R332ののりしろも
交互にかみ合わせて接合します。
写真のように凸カーブができるようにします。



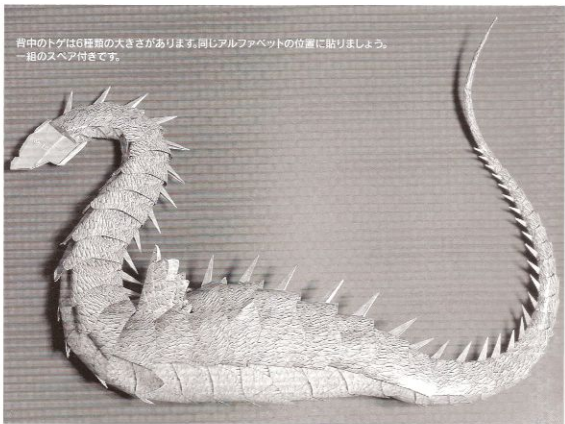
Fa-L332+Fa-R332をFa-022の胴体別パーツに接合します。

Fa-L331+Fa-R331は胴体上部穴をふさぐように接合します。
位置は写真を参照ください。



背中の中のように細かいパーツは先に線のとおり切って、
後で折ろうとしても細かい部分は折りづらい場合があるので、
周りに余白を残して少し大きめに切り取ります。
鉄筆で折り線を入れ、切れ込みを入れて、折り曲げます。
細かい部分はピンセットで挟んで折り曲げると良いでしょう。
折り曲げた後、余白を切り取ります。

背中の中は6種類の大きさがあります。同じアルファベットの位置に貼りましょう。
一組のスベア付きです。





指

指のように細かいパーツは周りの余白を残して切り取り、丸くせを付けてから、ハサミで切れ込みを入れ、のりしろを接着します。接着剤が乾いてから、周りの余白を切り取ると工作がし易いです。



指が出来たらd-01やe-01に取り付けます。



手足は一組のスペアパーツ付きです。

脚の骨組み

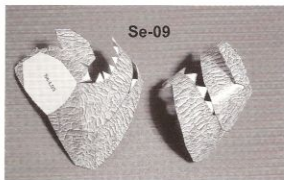
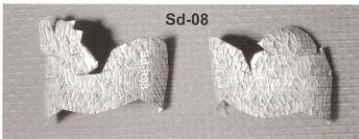
d-00、e-00に切れ込みを入れ、のりしろ部分を折り曲げます。



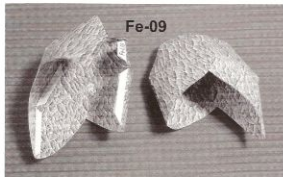
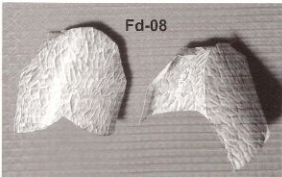
前脚d-00に脚の先端から付け根に向かって、数字の順にd-01~d-07を巻き付けるようにのりしろの位置を合わせて接着していきます。前後上下を間違えないように注意してください。

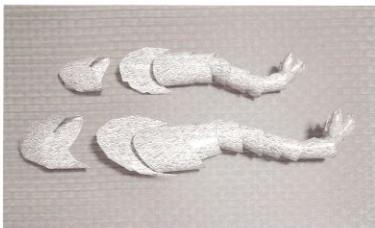
後脚も同様にe-00に脚の先端から付け根に向かって、数字の順にe-01~e-08を巻き付けるようにのりしろの位置を合わせて接着していきます。前後上下を間違えないように注意してください。

座りタイプの脚、Sd-08とSe-09を組み立てます。

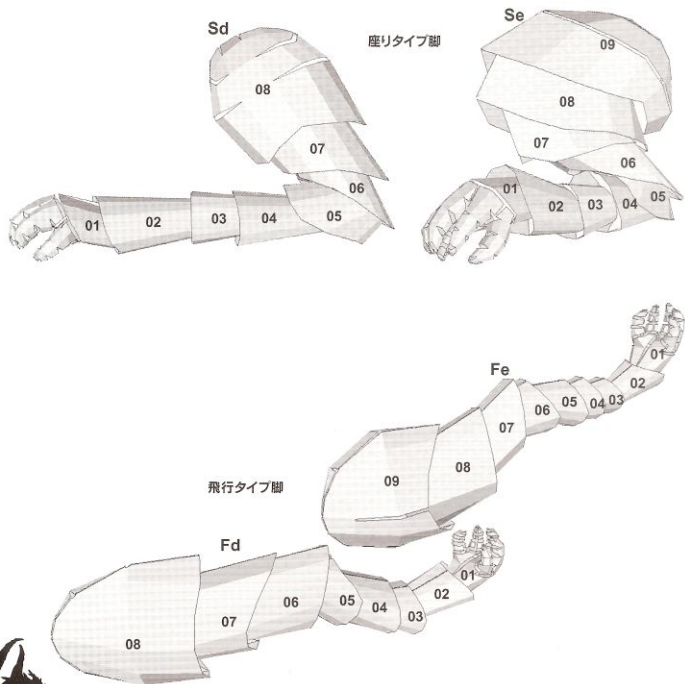


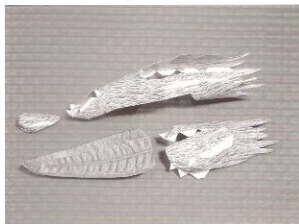
飛行タイプの脚、Fd-08とFe-09を組み立てます。





d-08は組んだ後、d-00に被せて接着します。
e-09も同様で、e-00に被せて接着します。





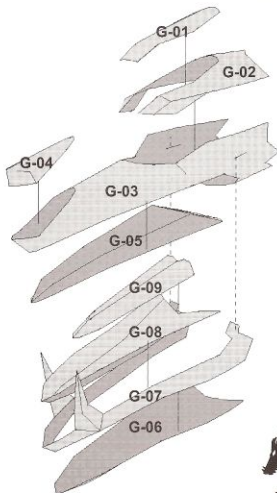
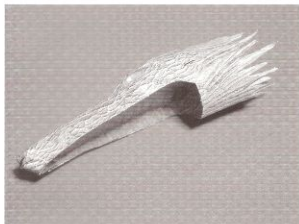
Gパーツは写真をよく見て、丸みくせを付けておきます。
G-01にG-02を貼り、組み立てます。
G-03はあらかじめ黒スリット部分にカッターで切れ込みを入れておきます。
後で下顎の支点が黒スリット部穴に入ります。
G-03を丸めて貼り、組み立てます。



組んだG-01とG-02、G-04をG-03に貼り、
G-03に口内G-05を貼ります。



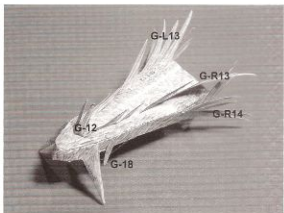
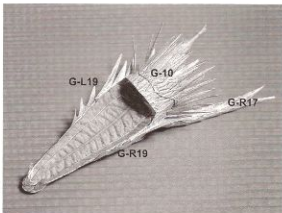
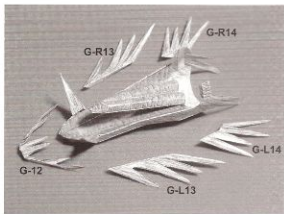
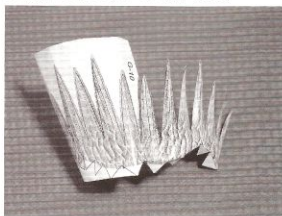
下顎G-06、G-07を組み、口内G-08を貼ります。
舌G-09を組み、のりしろを折り曲げて、G-08の裏に貼ります。



ツノG-17は丸みくせを付けてから折り、ツノの先端ののりしろから根元に向かって順番に接合していきます。
 先端の余白は残しておき、最後に切り取ると作りやすいでしょう。
 ツノG-17を頭G-01に貼ります。

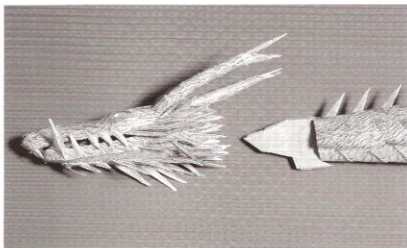


ヒゲG-10～G-16、歯G-18とG-19を貼ります。
 貼り付け位置は写真を参照してください。G-11は頭の上G-02の薄い点線上に貼ります。
 ※ヒゲや歯は平面より、あらかじめ軽く折って断面に半丸みくせを付けて立体的にしてから
 切り取ると見栄えが良くなります。
 腕に自信のある方はチャレンジしてみてください。



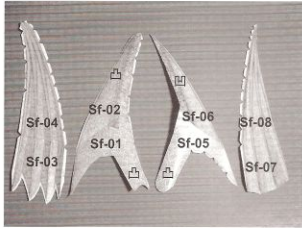
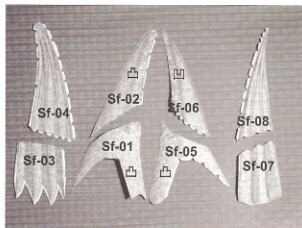


下顎の支点部分裏には補強のために紙を折り曲げて貼ります。
顎のスリット穴に入るように下顎の支点部を折って、差し込みます。
差し込んだら抜けないように折った部分を直します。
顎は開閉します。

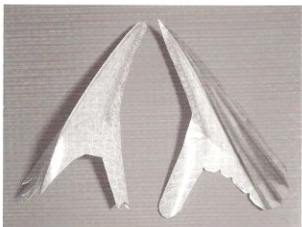
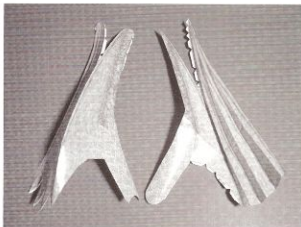


骨組みa-04を頭に差し込むように接着します。

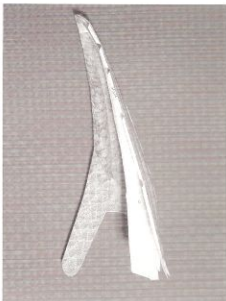
頭は一組のスペアパーツ(P.092)付きです。



凸丸みを付けたSf-01とSf-02を接着します。Sf-03とSf-04に折り目を入れ、接着します。
凸丸みを付けたSf-05と凹丸みを付けたSf-06を接着します。Sf-07とSf-08に折り目を入れ、接着します。
Sf-04とSf-08の折り目は上に行くほど浅くします。



Sf-01とSf-03、Sf-02とSf-04の外側の線を接着します。Sf-05とSf-07、Sf-06とSf-08の外側の線を接着します。
のりしろは少しずつ楕に貼り合わせていきます。



●塵リタイプの組み立て

塵リタイプの翼の貼り付け位置は点線を目安に、
平らな台の上に置き、くらくらない位置で
現物合わせて接着します。
裏にヘラや刮り箸を差し込んで押さえます。



塵リタイプは最後に翼を差し込んで完成です。
首や尻尾は針金入りなので曲げられます。

Sf-01~Sf-04の内側に
Sf-05~Sf-08の線に合わせて接着します。
Sf-07の端はSf-03に合わせて切り取ります。

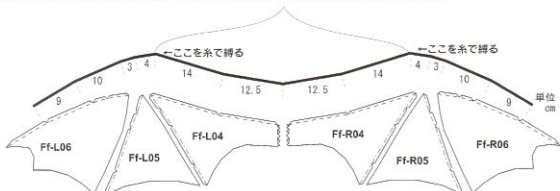


使用ページ ○飛行タイプ:p067~p090

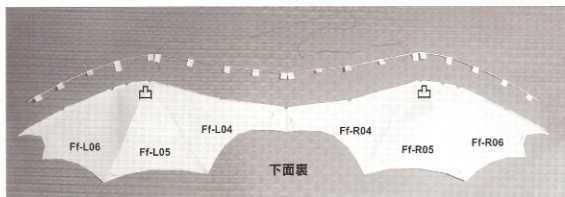
Ff-01、Ff-02、Ff-03を接着します。Ff-L01とFf-R01はのりしろを交互にかみ合わせて接着します。



Ff-04、Ff-05、Ff-06を接着します。Ff-L04とFf-R04はのりしろを交互にかみ合わせて接着します。太さ2mmほどの針金を1本通してFf-04、Ff-05、Ff-06の裏前縁の点線に沿うように曲げ、中に配置します。アルミ線や銅線等の柔らかい針金は重さに耐え切れず曲がってしまうので、鉄製の物を使用します。



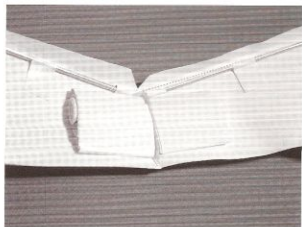
飛ぶための糸を図を参考に針金に結びます。糸の長さは90cmほどです。糸はのりしろの隙間から外に出しておきます。余白の紙を使い、所々針金に巻いて貼り、翼点線にとめます。



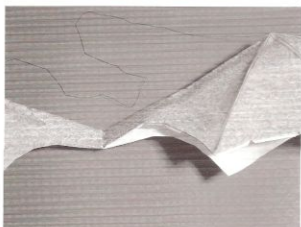
前後から見た翼の中心の角度は約150°になるように曲げます。翼端も少し下げ角度を付けます。150°の紙を切り取り分度器代わりに使用します。



105

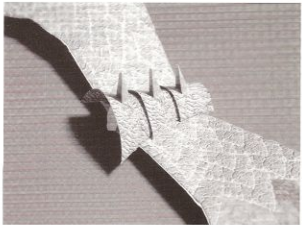


翼の根元中心部の断面がFf-00のレンズ状になるように
 余白の紙を折って翼の中に貼り付け、翼がつぶれないようにします。

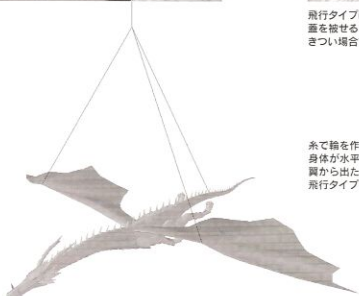


翼の前縁ののりしろを合わせて接着し、
 後縁部ののりしろも合わせて接着します。
 後縁部、下の翼が少しはみ出るようなら、
 上の翼に合わせて切り取ります。

●飛行タイプの組み立て 飛行タイプの脚の貼り付け位置は丸い点線を目安に、図を参考に接着してください。



飛行タイプは翼を網に接着し、
 蓋を被せるようにサンドイッチして接着します。
 きつい場合でも少しずつ丁寧に差し込めば入ります。



糸で輪を作り、尻尾に通して縛ります。
 身体が水平になるような長さで調節して、
 翼から出た糸と結び付けます。
 飛行タイプは天井等から吊るして飾ってください。

